

ID :

氏名 :

様

睡眠時無呼吸症候群の手術に関する説明・同意書

1. 病名と現在の病状

診断名：睡眠時無呼吸症候群

病状：扁桃の肥大と軟口蓋のたるみがあり、いびきや睡眠時の無呼吸が出現して、睡眠に障害が出ている状態

2. 計画される医療行為の術式、日時、担当者

術式：口蓋扁桃摘出術、軟口蓋形成術（いびきの手術）

日時：

担当者：

その他、別紙「睡眠時無呼吸症候群の手術に関する説明書」使用にて説明致しました。

私は上記の医療行為についてその必要性と内容、また、状況に応じた内容の変更、起こり得る危険性について説明致しました。

20 年 月 日

説明担当医師

同席者

私は上記の医療行為の説明を受け、実施に同意致します。

20 年 月 日

患者署名

家族等署名

（続柄： ）

睡眠時無呼吸症候群の手術に関する説明書

1. 計画される医療行為の目的と内容

目的 口呼吸、いびきを軽減させます。

手術 ・ 全身麻酔で行います。

- ・ 開口器（金属製）を口内に挿入し、歯にかけて口を開けて手術を行うため頸部に傷はつきません。
- ・ 創部を糸で縫合することがあります。
- ・ 口蓋扁桃を摘出し、口腔内のスペースを拡張し、さらに口蓋垂（のどちんこ）と軟口蓋を一部切除し縫い縮めます。

2. 計画される医療行為の必要性

保存的療法ではおのずと限界があります。今回は手術が必要と思われます。

3. 実施後の経過と改善の見込み、予後

創部に白い膜のようなものがつきますが、無理にはがさないで下さい。

2週間ほどで自然に脱落して、きれいな粘膜で覆われます。

術後の咽頭痛には個人差があります。食事ができるようになるまで点滴が必要です。

術後にかぜをひくことはありますが免疫力が低下することはありません。

いびき・無呼吸の原因は鼻の通りにくさ、口腔内の狭さ、首の脂肪などによるのどの狭さなどの要因があります。他の部分に要因がある場合はこの手術だけの改善には限界があります。減量、アレルギー性鼻炎のコントロールも必要です。

4. 計画される医療行為の危険性

細心の注意をはらって行いますが、不測の事態が起こる可能性があります。

- ・ 出血、疼痛、感染
- ・ 局所麻酔剤ショック
- ・ 全身麻酔中のショック
- ・ 肝機能障害、その他

5. 考えられる合併症

手術にあたっては細心の注意に努力をはらいますが、種々の合併症が出現することがあります。

- ・ 出血 手術当日および手術1週間前後（後出血）
出血が多い時は止血のための手術をすることがあります。
- ・ 疼痛・感染・歯牙損傷（とくに差し歯や不安定な歯の場合）
- ・ 口角炎、舌炎、味覚障害、舌のしびれ感
- ・ 軟口蓋形成をした場合、嚥下時に鼻に水がまわることがあります。
- ・ 術後開鼻声（鼻声）になることがあります。

6. この医療行為を行わなかった時の見込み

現状維持。

7. 他に考えうる医療行為の名称・内容・危険性・改善の見込み

内服および点滴。

ご不明なこと・ご要望がありましたら、遠慮なくお申し出ください。また、必要に応じて別の専門的な意見を得るために、他の医療機関や専門医に相談されること（セカンドオピニオン）もご自由です。そのための資料は準備いたしますのでお申し出ください。